

<p style="text-align: center;">国 語 II (Japanese II)</p>	<p style="text-align: center;">2 年 ・ 通 年 ・ 3 単 位 ・ 必 修 5 学 科 共 通 <u>現代文担当 武田 充啓</u> <u>古典担当 鍵本 有理</u></p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (3)</p>		
<p>〔講義の目的〕 他者との相互理解や相互伝達を円滑なものにするために、理解力や表現力とそれらを支える思考力や感性を培う。また、言語文化への理解を深め、多様な価値観を知ることを通して、豊かな人間性を育む。</p>		
<p>〔講義の概要〕 高等学校第2学年に相当する国語の力を身につけるため、高等学校用の教科書を使用し、様々な文章を読み、多様な考えに触れる。自分が感じたり、考えたりしたことを口頭や文章によって表現する機会、クラスメイトの意見や考えに触れ、検討や議論を通して自分の考えを深める機会をもつ。 週3時間のうち、2時間を現代文、1時間を古典（古文・漢文）の時間に当てる。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 授業前に教科書の下読み、知らない言葉の下調べは必ず行うこと。適宜プリントを使った授業をし、プリントを提出させる。授業中は発問を多くするので、積極的な発言や質問ができるよう準備しておくこと。また、作文や創作の時間を有効に使えるように、日頃から問題意識を持って自分や自分の身の回りの世界に目を向けておくこと。古典については毎時間、予習をすること。教科書の本文を写し、大事な注なども写しておく。そして、意味がわからないと思ったところを授業で集中して聞くようにするとよい。古典のノートは定期的に提出を義務づける。2週間に1回、漢字テストをする。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 小説の主題がつかめる。 3) 古文を正確に音読できる。4) 古文の内容を現代語でまとめたり表現したりすることができる。</p> <p>前期末試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 論理的な文章の構成がつかめる。 3) 漢文訓読の知識を身につける。4) 漢文の内容を正確に現代語で表現できる。</p> <p>後期中間試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 評論の主張が把握できる。 3) 古典作品の書かれた時代について知り、主題を理解する。</p> <p>学年末試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 人物の置かれた状況が読解できる。 3) 古典常識についての知識を身につける。4) 古文の内容を正確に現代語で表現できる。 5) 古典の敬語について理解する。</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績（80％）を基本とし、これに漢字テスト、課題・ノート提出、授業態度（音読・発表・取り組み姿勢など 20％）を加えて総合的に評価を行う。</p>		
<p>〔教科書〕 「精選 現代文B」（明治書院）、「古典B」（明治書院）</p> <p>〔補助教材・参考書〕 「新国語便覧（新版二訂）」（第一学習社）、「高校漢字必携」（第一学習社） 「完全マスター古典文法準拠ノート〈実力養成〉」第一学習社、プリント（教員自作）</p>		
<p>〔関連科目〕 国語の運用能力は、人文科学や社会科学系ばかりでなく、自然科学系の科目の基礎にもなることに留意して学習すること。</p>		

講義項目・内容

週数	現代文講義項目	講義内容	古典講義項目	講義内容	自己評価*	
第1週	ガイドダンス 小説	中島敦 「山月記」①	ガイドダンス 説話(1)『沙石集』	ノートの取り方説明 「児の飴食ひたること」		
第2週	小説	同上②	説話(2)『十訓抄』	「大江山」		
第3週	小説	同上③	『竹取物語』(1)	竹取物語概説・「帝の求婚」		
第4週	小説	同上④まとめ	『竹取物語』(2)	「かぐや姫の昇天」①		
第5週	評論	村上陽一郎 「科学と世界観」①	『竹取物語』(3)	「かぐや姫の昇天」②		
第6週	評論	同上②	『竹取物語』(4)	「かぐや姫の昇天」③		
第7週	評論	同上③まとめ	古文の窓①	敬語から主語を考えよう		
第8週	前期中間試験解説 小説	小川洋子 「ハキリアリ」①	前期中間試験解説 漢文の基本	漢文に関する1年次の復習		
第9週	小説	同上②	故事・逸話(1)	「矛盾」		
第10週	小説	同上③	故事・逸話(2)	「推敲」		
第11週	小説	同上④まとめ	史話・史伝(1)	「鴻門之会」①		
第12週	評論	今福龍太 「意味論の旅と越境」①	史話・史伝(2)	同上②		
第13週	評論	同上②	史話・史伝(3)	同上③		
第14週	評論	同上③	史話・史伝(4)	同上④		
第15週	評論	同上④まとめ	史話・史伝(5)	同上⑤		
前 期 末 試 験						
第16週	前期末試験解説 小説	よしもとばなな 「バプーシュカ」①	前期末試験解説 『徒然草』(1)	「世に語り伝ふること」①		
第17週	小説	同上②	『徒然草』(2)	同上②		
第18週	小説	同上③	『徒然草』(3)	「これも仁和寺の法師」①		
第19週	小説	同上④まとめ	『徒然草』(4)	同上②		
第20週	評論	鷲田清一 「モードの視線」①	『徒然草』(5)	同上③		
第21週	評論	同上②	『方丈記』(1)	「ゆく河の流れ」①		
第22週	評論	同上③まとめ	『方丈記』(2)	同上②		
第23週	後期中間試験解説 小説	夏目漱石 「こころ」①	後期中間試験解説 『源氏物語』(1)	源氏物語概説・「光源氏誕生」①		
第24週	小説	同上②	『源氏物語』(2)	「光源氏誕生」②		
第25週	小説	同上③	『源氏物語』(3)	同上③		
第26週	小説	同上④まとめ	『源氏物語』(4)	「小柴垣のもと」①		
第27週	評論	細見和之 「身体という受動性」①	『源氏物語』(5)	同上②		
第28週	評論	同上②	『源氏物語』(6)	同上③		
第29週	評論	同上③	『源氏物語』(7)	同上④		
第30週	評論	同上④まとめ	『源氏物語』(8)	『源氏物語』のまとめ		
学 年 末 試 験						

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。

歴 史 I (History I)	2年・通年・2単位・必修 2MESIC 担当 大矢 良哲	
〔準学士課程（本科 1-5 年）学習教育目標〕 (1)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>歴史の学習の目的は、過去に学ぶ、つまり今と未来への道標を探ることにある。日本史の場合、その目的は、過去の文化的伝統の中から、われわれが本当に誇り得るもの、明日の日本の発展、さらに人類全体の向上のために貢献し得るもの、反対に、日本民族の進歩を妨げてきたもの、今後一日も早く清算されなければならないものを的確に見分け、それぞれにふさわしい正当な位置づけを行うところにある。歴史では基本的な事実を正しく理解し、歴史的なものの見方を育てていきたい。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>講義は、授業時間数の関係で原始から近世までの通史と近現代の一部を取り上げる。近現代は“アジアのなかの日本”をテーマに平和学習を行い、夏休みにレポートを課す。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>歴史学という学問は、過去に向かってわれわれの探究心を無限に伸ばしていくものだから、知的遊戯としての楽しさを含んでいる。しかしそれは過去を過去としてのみ後ろ向きに見るものではない。むしろ前向きの実践的な性格の強い学問であり、人々の生き方そのものに直結している。歴史は暗記ものだというような考え方は、この点が理解されていないことによる。歴史学は、経済学・法学・政治学などとは違って、社会諸現象の総体を有機的に捉え、これを時間の経過において問題にするところに特色がある。テストの際に暗記さえすればよいという考えは捨てていただきたい。むしろ歴史の流れを理解するほうが大切で、そのために多少の歴史的用語の学習が必要となるのである。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>学生諸君が、日本の歴史を、日本をとりまく世界の歴史とのつながりのもとに科学的に理解しようとする。そのためには、まず日本史の正確な理解が要求される。</p>		
<p>〔評価方法〕 以下の3つの項目で成績評価を行う。</p> <p>定期試験（60%）…前期中間・後期中間・学年末に実施。</p> <p>レポート（25%）…夏休みには平和学習の課題を出す。前期末においては、このレポートが成績評価の主な資料となる。</p> <p>残り(15%) …出席状況・受講態度・講義ノートの提出等によって評価する。</p> <p>また、秋には文化財の自由研究の課題（奈良国立博物館の活用）を出し、決められた期間内にレポートのかたちで提出した者には学年末成績に少し加点する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>教科書としては簡潔に歴史の筋道を記述した『もういちど読む 山川日本史』（山川出版社）を用い、『山川 ビジュアル版 日本史図録』（山川出版社）によって理解を深める。</p> <p>〔補助教材〕</p> <p>補助教材としてはビデオ教材や配布プリントなどを使用する。</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕</p> <p>本教科は地理・歴史Ⅱ（世界史）・政治経済・法学・経済学等の科目に関連する。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	〔原始・古代〕 歴史とは、文化のはじまり	日本歴史をいかに学ぶか、先史時代から縄文文化への発展とその特徴	
第 2 週	農耕社会の誕生	(ビデオ教材使用) 縄文社会から弥生社会への移行	
第 3 週	小国の時代と古墳	邪馬台国と大和王権の誕生	
第 4 週	大和王権と古墳文化	大和王権の発展と古墳文化	
第 5 週	飛鳥の宮廷	聖徳太子と蘇我氏の政治	
第 6 週	大化の改新	中大兄皇子と改新政治	
第 7 週	律令国家	律令国家の草創とその繁栄	
第 8 週	飛鳥・白鳳の文化	大陸文化と日本人の精神文化	
第 9 週	平城京の政治	奈良時代の国家の発展	
第10 週	〔近代〕 大日本帝国の戦争	近代日本とアジア	
第11 週	戦時下の国民生活	大東亜共栄圏の実態、国民生活の崩壊 (ビデオ教材使用)	
第12 週	敗戦と戦後改革	連合国の動向と原爆投下、沖縄戦と基地 (ビデオ教材使用)	
第13 週	〔古代〕 天平文化	国家仏教と天平芸術	
第14 週	平安遷都と貴族政治	律令政治再建の気運と藤原氏	
第15 週	弘仁・貞観文化	唐風文化の盛行と密教	
第16 週	摂関政治	藤原時代の政治	
第17 週	国風文化	浄土思想と国風文化	
第18 週	〔中世〕 荘園と武士団	荘園の発達と武士の台頭	
第19 週	院政と平氏政権	院政の展開と武士社会の形成	
第20 週	鎌倉幕府の誕生	武家支配の浸透	
第21 週	鎌倉文化	新仏教の発展と文化の新傾向	
第22 週	蒙古襲来と南北朝動乱	幕府の衰退と南北朝の分立	
第23 週	室町幕府と勘合貿易	室町幕府の展開と外交政策	
第24 週	下剋上の社会と戦国大名	農民の成長と下剋上、戦国大名の分国支配	
第25 週	北山文化・東山文化	東山芸術と民衆の文化	
第26 週	〔近世〕 ヨーロッパ人の来航と織豊政 権	信長・秀吉の天下統一	
第27 週	桃山文化と幕藩体制の確立	桃山文化と江戸幕府の成立	
第28 週	鎖国への歩み	「鎖国」のなかの異文化接触	
第29 週	幕藩体制の展開と文化	幕政の安定と元禄・化政の文化	
第30 週	まとめ		

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

微分積分 I (Calculus I)		2 年・通年・4 単位・必修 機械工学科 担当 安田 智之 電気, 電子制御, 情報工学科 担当 名倉 誠 物質化学工学科 担当 市原 亮	
[準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標] (2)			
[講義の目的] 近代になってから完成した数学の中で最も重要な部分とされている「極限」、「微分法」、「積分法」の考え方をひとつと取り学びます。これにより、数学的思考力を養うとともに十分な計算力を培い、将来学ぶ様々な分野の科学を学ぶための基礎学力を身につけることが目的です。			
[講義の概要] 窓から小石を握った手を差し出し、手のひらを開くと小石はだんだん速度を増しながら落下していきます。このとき、たとえば「2 秒後の速度」はどうやって計算すればよいのでしょうか。講義の前半では、その計算法を考え、それを一般化した考え方を学び、応用を考えます。また講義の後半では、図形の面積や体積の計算法を考え、それを一般化した考え方を学び、応用を考えます。			
[履修上の留意点] 最初から記号や言葉の意味を頭で理解しようとせずに、練習問題を解くことを通して、手を動かしながら考えていくことを強く勧めます。最初のうちは、細かいことを気にせずに、大筋をつかむように勉強していくとよいでしょう。計算の仕方と理論がわかれば数学は非常におもしろいものです。そうなるためには、まずは授業中、集中して積極的に手を動かし自分の頭で理解するよう努力しましょう。また、ノートを書きただけでは、理解したことにはなりません。自分なりに理解しようと、頭を働かせることが重要です。そして、授業の予習・復習を中心に地道な家庭学習を心がけて下さい。難しいと思うことも繰り返しやってみれば易しくなってきます。 なお、疑問点がある場合には授業中だけでなく、オフィスアワーなどの放課後の時間も利用して積極的に担当教員のところへ質問しに来て下さい。			
[到達目標] 何となく理解するのではなく、自力で問題が解けなければ意味がありません。教科書の「例題」と「練習」および問題集の A 問題が完全に解ける実力をつけることが目標です。各定期試験時での到達目標の内容は次の通りです。 前期中間試験：数列の一般項や和を求められ、数学的帰納法による証明ができる。無限数列の極限や無限級数の収束・発散を調べることができる。関数の極限の考え方が理解できる。 前期末試験： いろいろな関数（三角関数や指数関数など）の極限および導関数の計算ができる。 後期中間試験：増減表（増減凹凸表）を使って関数のグラフの概形を描くことができる。曲線の接線や方程式の実数解の個数が求めることができる。近似値、速度・加速度の計算ができる。置換積分と部分積分を含む不定積分の計算ができる。 学年末試験：更にいろいろな関数の不定積分が計算できる。置換積分、部分積分を含む定積分の計算ができ、図形の面積や回転体の体積が求められる。			
[評価方法] 定期試験(60%)を基本とし、小テスト・宿題・課題レポート・授業への取り組み(40%)を加えて総合的に評価します。			
[教科書] 「新版 微分積分 I」 実教出版 [補助教材・参考書] 「新版 微分積分 I 演習」 実教出版			
[関連科目] 微分・積分法は物理や専門科目においても使われる重要な内容ですので、よく理解して計算が出来るようにしておくことが肝心です。さらに詳しい内容は、3 年次の「微分積分 II」で学習します。			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	数列、等差数列	等差数列の一般項と和を求める。	
第2週	等比数列	等比数列の一般項と和を求める。	
第3週	いろいろな数列	数列の和を Σ の記号で表し、公式を利用して和を求める。	
第4週	漸化式と数学的帰納法	簡単な漸化式の解法と数学的帰納法による証明を紹介する。	
第5週	無限数列の極限	等比数列を含む無限数列の極限を考えて収束と発散を調べる。	
第6週	無限等比級数	無限級数（特に無限等比級数）の収束と発散を調べる。	
第7週	関数の極限值	微分を定義するために関数の極限を考える。	
第8週	関数のいろいろな極限	極限を拡張して、さらに右からの極限・左からの極限を考える。	
第9週	いろいろな関数の極限	いろいろな関数の極限を求め、関数の連続性について考える。	
第10週	平均変化率と微分係数 導関数	平均変化率の極限として微分係数を定義し、導関数を考える。	
第11週	関数の積・商の微分法	積と商の微分の公式を証明し、微分の計算に利用する。	
第12週	合成関数と逆関数の 微分法	合成関数と逆関数の微分を利用して、複雑な関数を微分する。	
第13週	三角関数の導関数	三角関数の導関数および逆三角関数の導関数を導く。	
第14週	対数関数と指数関数の導 関数	自然対数を定義し、その導関数を求める。さらに、対数微分法により指数関数の導関数を導く。	
第15週	高次導関数	2次以上の高次導関数を計算する。	
前期期末試験			
第16週	関数の導関数と増減	微分を利用して曲線の接線の方程式や増減、極値を調べる。	
第17週	関数のグラフ	2次導関数までを計算して、曲線の凹凸や変曲点を調べる。また、増減表を使って関数のグラフを描く。	
第18週	いろいろな応用 (1)	増減表を使って最大値・最小値を求める。不等式を証明する。	
第19週	いろいろな応用 (2)	方程式の実数解の個数を調べる。また、近似値を計算する。	
第20週	いろいろな応用 (3)	速度や加速度を始めとして、いろいろな量の変化率を求める。	
第21週	不定積分	基本的な不定積分の計算をする。	
第22週	置換積分法	置換積分法により不定積分を計算する。	
第23週	部分積分法	部分積分法により不定積分を計算する。	
第24週	いろいろな関数の 不定積分	分数関数や三角関数の不定積分を計算する方法を習得する。	
第25週	定積分	定積分を定義し、基本的な定積分の計算をする。	
第26週	定積分での置換積分法	置換積分法により定積分を計算する。	
第27週	定積分での部分積分法	部分積分法により定積分を計算する。	
第28週	面積と定積分 (1)	定積分を使って曲線や直線で囲まれた図形の面積を計算する。	
第29週	面積と定積分 (2)	いろいろな図形の面積や、曲線の長さを計算する。	
第30週	体積	定積分を使って回転体などの体積を計算する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">代数・幾何 I (Algebra and Geometry I)</p>	<p style="text-align: center;">2年・通年・2単位・必修 電気, 電子制御, 物質化学工学科 担当 田中 清喜 機械, 情報工学科 担当 作間 美穂</p>	
<p>〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 ベクトルと行列・行列式について学ぶ。これらは自然科学については言うまでもなく社会科学でも大いに利用されている基本的な数学的道具である。幾つかの数字をまとめて組として扱う数学的概念に慣れ、それを思考する力を養うと共に、十分な計算力をつけることを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 前期においては、大きさと向きをもつ量であるベクトルを用いて平面上の直線・円や空間内の直線・平面・球など、平面図形と空間図形を表現してそれらを考察する。後期においては、長方形上に並べられた数字の組である行列とその組から計算された実数値である行列式を使って「連立方程式の解法」を学ぶ。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 最初から記号や言葉の意味を頭で理解しようとせずに、出来るだけ具体的な問題(例題)を通して、図形や数式をかきながら考えていくことを勧めます。まずは細かいことをあまり気にせずに、大筋をつかむように勉強していくとよいでしょう。図形の式表現の仕方、いろいろな量の計算の仕方、更にはその理論がわかってくればだんだん楽しくなってくると思います。 授業中は集中して教員の言葉、板書の内容を理解しようとして下さい。また、きちんとノートをとることは必要です。しかし板書を写しただけでは、理解したことにはなりません。授業のあと、必ず復習を行い、自分なりに内容をかみくだいて納得できるまで、頭を働かせることが重要です。そして、練習問題を、時間をかけてこつこつと解いていくことが大切です。復習を主とする地道な家庭学習を心がけて下さい。疑問点がある場合には授業中だけでなく、放課後も利用して積極的に担当教員のところには是非質問に来てほしいと思います。</p>		
<p>〔到達目標〕 教科書の「問題」と「練習問題」、問題集の「A 問題」を自力で解けるようになることが最低目標です。 前期中間試験まで：平面上の直線、円などについての考察を、ベクトルを用いて行えること。 前期末試験まで：空間内の直線、平面、球面などについての考察を、ベクトルを用いて行えること。 後期中間試験まで：行列の計算ができ、逆行列を用いて連立一次方程式が解けること。 学年末試験まで：行列式の計算ができ、それを用いて連立一次方程式が解けること。</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験の結果(70%)を基本とし、小テスト・レポート・授業への取り組み(30%)を加えて総合的に評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 「新版 線形代数」、実教出版、岡本 和夫 監修 〔補助教材・参考書〕 「新版 線形代数演習」、実教出版、岡本 和夫 監修</p>		
<p>〔関連科目〕 1 年次の「数学 α」と「数学 β」で学んだ内容が基礎となる。本講義の内容は 3 年次の「代数・幾何 II」にそのまま引き継がれる。本講義で学ぶ内容は「微分積分」と共に専門科目の基礎となる。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ベクトルの意味とその演算	「大きさ」と「向き」をもつ量とその演算を考える。	
第2週	平面ベクトルの成分	ベクトルを成分表示して和差・実数倍の演算を行う。	
第3週	平面ベクトルの性質	ベクトルの大きさ、分解、2つのベクトルの関係。	
第4週	平面ベクトルの内積	平面ベクトルの掛け算を定義しその演算を行う。	
第5週	平面ベクトルの内積の性質	ベクトルの和差・実数倍・内積の計算法則を考える。	
第6週	平面上の位置ベクトル	平面上の点をベクトル表示し、点の位置を求める。	
第7週	直線、円のベクトル方程式	平面上の直線、円をベクトルで表現し、考察する。	
第8週	空間座標と空間ベクトル	空間内の点をベクトル表示し、点の位置を求める。	
第9週	空間ベクトルの成分	ベクトルを成分表示し和差・実数倍の演算を行う。	
第10週	空間ベクトルの性質	ベクトルの大きさ、分解、2つのベクトルの関係。	
第11週	空間ベクトルの内積	空間ベクトルの掛け算を定義しその演算を行う。	
第12週	空間ベクトルの平行と垂直	ベクトルの演算を用いて平行・垂直を表す。	
第13週	空間内の位置ベクトル	空間内の点をベクトル表示し、点の位置を求める	
第14週	空間内の直線の方程式	空間内の直線をベクトルを用いて表現する。	
第15週	空間内の平面・球面の方程式	空間内の平面、球面をベクトルを用いて表現する。	
前期末試験			
第16週	行列	行列を定義し、行列の和、実数倍を考察する。	
第17週	行列の積	行列の積を定義し、その基本法則を導く。	
第18週	行列の積の性質	行列の積についての零因子、累乗を考える。	
第19週	逆行列とその性質	行列の積について逆演算を考える。	
第20週	いろいろな行列	転置行列、対称行列、交代行列、直交行列。	
第21週	掃き出し法	掃き出し法で連立一次方程式を解く。	
第22週	掃き出し法（その2）	連立一次方程式の解の種類を考察する。	
第23週	行列の階数、逆行列	連立一次方程式の解の有無判定。逆行列の求め方。	
第24週	行列式の定義	行列に対して一つの実数値を対応させる。	
第25週	行列式の性質	行列式についての基本的な性質を考察する。	
第26週	文字を含む行列式	行列式を数式の因数分解に応用する。	
第27週	行列式の展開	n 次の行列式を $(n-1)$ 次の行列式を用いて表す。	
第28週	行列式と逆行列	行列式を用いて逆行列を求める。	
第29週	行列式と連立一次方程式	連立一次方程式の解を求める公式を導く。	
第30週	行列式と連立一次方程式(その2)	連立一次方程式の解が無数にある場合を考察する	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">物理Ⅱ (Physics Ⅱ)</p>	<p style="text-align: center;">2年・通年・3単位・必修 M I 担当 新野 康彦 E 担当 堀内 泰男 S C 担当 稲田 直久</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>近年の急激に進歩した技術は、我々の生活の隅々に入り込み個人の能力を飛躍的に増大してくれました。しかしその一方、それらの技術は「ブラックボックス化」し、その真の姿（原理）が見えにくくなっています。そのため、このような時代・世界において、特に技術者が責任ある行動や決断を行うためには、背景にある科学的原理を理解する事によって、自分自身の理解力、洞察力を高めることが必要になっています。</p> <p>2年次の物理はあらゆる専門科目の基礎であると同時に、科学の基本的方法を学ぶことを目的としています。具体的には</p> <p>(1) 自然の性質（実験事実）を数式によって理解すること：<u>数理解の理解</u>、</p> <p>(2) 物理学を理解することで自然界のいろいろな現象を統一的に説明できること：<u>普遍性の理解</u></p> <p>です。そのためには、科学の理解とは、単なる問題の解答を見つける能力と異なる事を認識し、創発的思考や、自ら間違いを訂正する能力を訓練してもらいたいと思います。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>2年次の物理は、物理学や工学の各分野での基本理解を得るために必要な熱力学、剛体や流体の力学、波動、電磁気（静電気）の各分野を学びます。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>物理は専門科目の入り口に当たるので、「理解する」ということがどういうことかを理解できないと困ります。したがって授業中にこちらから質問を投げかけますので、それに答えられるように授業の内容を「理解」していくことが重要です。講義中には、学生の発言に関し配点を与える場合もあります。また、数式をより深く理解するために実験が設定されていますので、しっかりと準備をして集中して取り組んでください。</p> <p>講義内容は予定であり、学生の理解度を考慮して多少の変更をする可能性があります。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：熱現象に関する事項を理解するとともに、熱力学第一法則を理解し問題が解けること。</p> <p>前期末試験：熱力学第二法則、剛体の釣り合いの問題、圧力の問題を理解し、問題が解けること。</p> <p>後期中間試験：波動の基本事項、音波、ドップラー効果を理解し、問題が解けること。</p> <p>学年末試験：光波、光の干渉、電磁気の基礎（静電界）を理解し、問題が解けること。</p> <p>どの段階でも最低、教科書の問、例題、問題集のA問題を理解していること。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験と実験レポート、課題レポート、授業への取組状況で総合的に判断します。定期試験とそれ以外の配点比率は約6：4です。共通テストはその他の部分に入れ、全体の10％とします。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>高専の物理（第5版、森北出版）、高専の物理問題集（第3版、森北出版）</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>数学の教科書、フォトサイエンス物理図録（数研出版）、配布プリント</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>中学校の物理分野と数学の最低限の知識は仮定します。しかしながら数学的取扱いに関しては可能な限り復習を含めて授業をすすめる予定です。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	イントロダクション	講義方法、授業方法、成績評価方法の説明を行なう。	
第2週	万有引力下の運動	惑星および人工衛星の運動について理解する。	
第3週	単振動・慣性力	単振動および慣性力の基本を理解する。	
第4週	熱力学の基礎	温度の定義と熱の正体について理解する。	
第5週	同上	気体法則の原理と計算について理解する。	
第6週	同上	熱と仕事の関係についての原理と計算について理解する。	
第7週	同上	熱容量の原理と計算について理解する。	
第8週	同上	比熱の原理と計算について理解する。(実験を行う)	
第9週	熱力学の原理	気体分子運動論の原理と計算について理解する。	
第10週	同上	熱力学過程の計算をする。	
第11週	同上	熱力学第一、二法則の原理と計算について理解する。	
第12週	剛体の力学	力のモーメントの原理と計算について理解する。	
第13週	同上	剛体の釣り合いの原理と計算について理解する。	
第14週	流体の力学	圧力の原理と計算について理解する。	
第15週	同上	浮力の原理と計算について理解する。	
前期期末試験			
第16週	波動現象の基礎	直線を伝わる波の正体と考え方について理解する。	
第17週	同上	波の基本式を理解する。	
第18週	同上	縦波と横波について理解する。	
第19週	波動と数式	正弦波の式の原理と計算について理解する。	
第20週	同上	定常波の原理と計算について理解する。	
第21週	空間に広がる波	回折、干渉、反射の原理と証明、計算について理解する。	
第22週	同上	屈折の原理と証明、計算について理解する。	
第23週	音波	音波の基本と計算について理解する。	
第24週	同上	気柱共鳴の実験を行い、レポートを提出する。	
第25週	同上	ドップラー効果の原理と計算について理解する。	
第26週	光波	光波の基本と計算について理解する。(屈折の実験)	
第27週	同上	光の干渉や偏光・分散(分光)について理解する	
第28週	電磁気学の基礎	静電界、クーロンの法則の計算について理解する。	
第29週	同上	ガウスの定理の原理と応用について理解する。	
第30週	同上	電位、電位差の原理と計算について理解する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">化 学 II (Chemistry II)</p>	<p style="text-align: center;">2 年 ・ 通 年 ・ 2 単 位 ・ 必 修 機 械, 電 気, 電 子 制 御, 情 報 工 学 科 ・ 担 当 北 村 誠</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 私たちの身の回りの物質がどのように構成されているかを理解すること、さらに、物質の性質や物質の変化にかかわる自然現象を化学的に考えて、解釈することを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 物質を構成している元素の基本的な性質を周期表から学ぶことで、無機化合物ができるしくみや性質を系統的に理解する。有機化合物を系統的に学ぶことで、その特性や用途を理解し、材料工学分野で利用される高分子化合物へとつなげていく。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 化学はともすると暗記科目のように見られているが、すこしの暗記はあるが、基礎事項をしっかり理解できれば系統的に理解できる科目です。復習をしっかりすることが大切です。そのために小テストを度々行う。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 1) 非金属の性質の理解、2) 非金属の反応性の理解、3) 周期表の理解、 4) アルカリ金属の理解、5) アルカリ土類金属の理解</p> <p>前期末試験： 1) 遷移金属の理解、2) 金属の分離法、3) アルカンの理解、 4) アルケン・アルキンの理解、</p> <p>後期中間試験： 1) 分子構造決定法、2) 官能基の性質、3) アルカンの反応性、4) アルケン・アルキンの反応性、5) アルコールの性質、6) カルボニル化合物の性質</p> <p>学年末試験： 1) 芳香族化合物の性質の理解、2) カルボン酸およびその誘導体の性質、 3) フェノール類 4) 高分子化学の理解</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績（70％）に小テスト点、課題および実験レポート点（30％）を含めて総合評価する。定期試験ごとに提示する達成目標を各々クリアする事で単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕 「新編 高専の化学」, 森北出版, 春山志郎 監修</p> <p>〔補助教材・参考書〕 「参考書名：最新図説化学」, 第一学習社, 佐野博敏・花房昭静 監修, 「参考書名：セミナー化学基礎+化学」, 第一学習社, 第一学習社編集, 「補助教材：配布プリント」</p>		
<p>〔関連科目〕 1 年で習う化学と併せて 5 単位が高専で習う化学のすべてである。しかし、工学で学ぶ者にとって化学は、数学や物理などとともに重要な基礎科目であり、卒業研究をするときや、就職後に必ず必要となる科目である。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	非金属元素と14族元素	周期表の理解。14族元素の性質について説明する。	
第2週	15族元素の性質	窒素・リンの単体、化合物の性質について説明する。	
第3週	16族元素の性質	酸素・硫黄の単体、化合物の性質について説明する。	
第4週	17族元素の性質	ハロゲンの性質・反応性について説明する。	
第5週	18族元素の性質	希ガスの性質、構造について説明する。	
第6週	アルカリ金属の性質	アルカリ金属の炎色反応・反応性および化合物の特性について説明する。	
第7週	アルカリ土類金属および両性元素の性質	アルカリ土類金属の説明。炎色反応・反応性および化合物の特性について説明する。両性元素とはどういうものかを理解させる。	
第8週	錯イオン・錯体	錯イオン・錯体を説明し、命名法を理解させる。	
第9週	遷移金属	鉄、銅、銀の単体およびその化合物の性質を説明する。	
第10週	金属イオンの分離	金属イオンの分離法について説明する。	
第11週	有機化合物の特徴と構造	有機化合物の構造と特徴について説明する。	
第12週	飽和炭化水素	アルカンの構造および命名法を理解させる	
第13週	不飽和炭化水素	アルケン、アルキンの構造および命名法を理解させる。	
第14週	異性体	構造異性体、幾何異性体を理解させる。	
第15週	混成軌道	有機化合物の構造を混成軌道から説明する。	
前期期末試験			
第16週	芳香族炭化水素	芳香族炭化水素の構造、特徴を説明する。	
第17週	官能基	官能基の性質を説明する。	
第18週	分子構造の決定	元素分析法による組成式の決定法を理解させる。	
第19週	アルカンの反応	アルカンの構造を説明し、その性質と反応性を理解させる。	
第20週	アルケンとアルキンの反応	アルケンとアルキンの性質と反応性を説明する。	
第21週	アルコール	アルコールの性質、合成法、分類について説明する。	
第22週	カルボニル化合物	アルデヒド、ケトンの合成法、性質について説明する。	
第23週	カルボン酸とその誘導体	カルボン酸、酸無水物、エステル合成法、性質について説明する。	
第24週	エーテル	エーテルの合成法、性質について説明する。	
第25週	芳香族炭化水素の反応	ベンゼンの置換反応・付加反応について説明する。	
第26週	その他の芳香族炭化水素	フェノール類、芳香族カルボン酸、ニトロ化合物について説明する。	
第27週	高分子化学	高分子とはどういうものかを理解させる。	
第28週	合成高分子	合成高分子の合成法と性質を説明する。	
第29週	天然高分子化合物	タンパク質を中心に、天然高分子化合物について説明する。	
第30週	機能性高分子	近年話題になっている機能性高分子について概説する。	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">保健・体育Ⅱ (Health and Physical Education Ⅱ)</p>	<p style="text-align: center;">2年・通年・2単位・必修 機械、電気、電子制御、物質化学工学科 ：中西茂巳、松井良明 情報工学科：中西茂巳、森弘暢</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動実践を通して、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、健康の保持増進のための実践力と体力の向上を図り、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 		
<p>〔講義の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力を高め、運動を楽しむ態度を育てるために、各種の運動を実践し、競技ごとの技術やルール、社会性、身体に関する知識を学ぶ。 		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に応じて運動技能を高め、体力の保持増進につとめること、また、自己の健康状態を把握し、改善していくための方法を身につけるとともに、スポーツ文化への理解をとおして豊かなスポーツライフの確立をめざしてほしい。 		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動技術に関する基礎的な技能及び知識を身につけ、運動に親しむ態度を養う。また、自己の体力を知り、高めるための方法を追求できるようにする。 		
<p>〔評価方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業時の課題への取り組み状況（60%）、運動技術及び知識の習熟度（40%）を総合して評価する。 		
<p>〔教科書〕 『保健体育概論改訂増補版』近畿地区高専体育研究会編、晃洋書房</p> <p>〔補助教材・参考書〕 『アクティブスポーツ【総合版】』、大修館書店</p>		
<p>〔関連科目〕</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	体力・運動能力調査①	文部科学省が定める「新体力テスト」の実施。	
第2週	体力・運動能力調査②	同上	
第3週	体力・運動能力調査③	同上	
第4週	テニス①	テニスのルールを知り、基本的技術習得することで簡易ゲームができるようになる。	
第5週	テニス②	同上	
第6週	テニス③	これまでに習得した技能を活かし、ダブルスでのゲームができるようになる。	
第7週	バレーボール①	これまでに習得した個々の技能を活かし、チームとしての攻撃ができるようになる。	
第8週	バレーボール②	同上	
第9週	バレーボール③	チームを編成し、ゲームができるようになる。	
第10週	水 泳①	水の特性を理解して泳法の練習を行うとともに、ウォーター・スポーツを体験することにより、その楽しみに触れる。	
第11週	水 泳②	同上	
第12週	水 泳③	同上	
第13週	バドミントン①	バドミンントンのルールを知り、基本的技術習得することで簡易ゲームができるようになる。	
第14週	バドミントン②	同上	
第15週	バドミントン③	これまでに習得した技能を活かし、ダブルスでのゲームができるようになる。	
第16週	ソフトボール①	これまで習得した技能をもとに、組織的なコンビネーションプレーができるようになる。チームを編成し、ゲームができるようになる。	
第17週	ソフトボール②	これまで習得した技能をもとに、組織的なコンビネーションプレーができるようになる。チームを編成し、ゲームができるようになる。	
第18週	ソフトボール③	これまでに習得した技能を活かし、ゲームができるようになる。	
第19週	卓 球①	卓球のルールを知り、基本的技術習得することで簡易ゲームができるようになる。	
第20週	卓 球②	同上	
第21週	ニュースポーツ①	新しいスポーツ文化を経験する。	
第22週	ニュースポーツ②	同上	
第23週	サッカー①	基本技術を習熟し、組織的なコンビネーションプレーができるようになる。	
第24週	サッカー②	同上	
第25週	サッカー③	チームを編成し、ゲームができるようになる。	
第26週	バスケットボール①	基本技術を習熟し、組織的なコンビネーションプレーができるようになる。	
第27週	バスケットボール②	同上	
第28週	バスケットボール③	チームを編成し、ゲームができるようになる。	
第29週	選択制①	主体的に種目を選択し、スポーツを行うことができるようになる。	
第30週	選択制②	同上	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

英語Ⅱ (EnglishⅡ)	2 年 ・ 通年 ・ 3 単位 ・ 必修	
	電気工学科： 担当 神澤 和明	
〔準学士課程（本科 1－5 年） 学習教育目標〕 (3)		
〔講義の目的〕 「読む・書く・話す・聞く」の 4 技能を総合的に学習し、1 年次に身に付けた基礎的な文法、構文の学力に基づいて、発展的に発話力や読解力や作文力や語彙力を身につけることを目的とする。国際社会で交流する際に必要な、外国の歴史や文化や考え方に対する理解も更に一層深まるように指導したい。		
〔講義の概要〕 教材毎に、精読、速読、コミュニケーションに重点を置いて指導するが、文法力や作文力や発話力の更なる育成を目指す。精読では、文法や構文に留意して正確な英文解釈、内容把握をさせる。速読では、英語の流れに従って、短時間に正確にポイントを把握させる。コミュニケーションでは、積極的に英語を運用させる。		
〔履修上の留意点〕 新出単語・連語は必ず予習すること。各レッスンのまとめにある文法事項を理解し、作文できるようにすること。毎週実施される単語テストは語彙力をつけるために必要であるので真剣に取り組むこと。		
〔到達目標〕 各レッスンの内容把握を深めるために、新出文法事項を理解し、運用できるようにしたり、新出単語や熟語の定着を図るように指導する。 前期中間試験：Lesson 1～Lesson 2 ①It の用法(1)②have/get+目的語+過去分詞 ③受動態[群動詞] ④受け身の動名詞 前期末試験：Lesson3～Lesson 5 ①複合関係詞②関係副詞[非制限用法]③仮定法④無生物主語⑤強調構文 後期中間試験：Lesson6～Lesson 7 ①動名詞 ②不定詞(1) ③関係代名詞(1)④語順・同格 学年末試験：Lesson8～Lesson 10 ①There 構文②関係代名詞(2)③倒置④不定詞(2)⑤省略⑥関係代名詞(3)⑦分詞構文		
〔評価方法〕 定期試験成績 60%，小テスト 20%，課題、授業態度点(発言の優劣や回数)20% (合計 100%)		
〔教科書〕 Genius English CommunicationⅡ (大修館書店) 〔補助教材〕 Word-Meister 英単語・熟語 4500 (第一学習社)(1 年時に購入済) 英語の構文 150UPGRADED99Lessons(美誠社)		
〔関連科目〕 英語Ⅰと英文読解Ⅰに関連するが、テレビやインターネットや新聞雑誌等の英語に関する情報や未知の単語や表現に一層注意を払いながら、自分の英語の学力や発話力を絶えず brush up するように努めてほしい。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価＊
第1週	ガイダンス、Lesson 1 <i>Hanamizuki</i>	日米交流の架け橋としてやってきたハナミズキ。今日も平和を願いながら咲き誇る。It の用法(1)[It seems that~, It takes/costs~]。have/get+目的語+過去分詞。	
第2週			
第3週			
第4週	Lesson2 <i>Learning Language, Learning Self</i>	外国語を学ぶことはその背景にある文化も含めて学ぶこと。受動態[群動詞, It's said/believed~, get +過去分詞]。受け身の受動態[being+過去分詞]	
第5週			
第6週			
第7週	Lesson 3 <i>Nature</i>	自然からヒントを得て、より地球に優しい技術が生まれ	
第8週	前期中間試験		
第9週	<i>Technology</i>	る。複合関係詞[複合関係代名詞, 複合関係形容詞, 複合関係副詞]。関係副詞[非制限用法]。	
第10週			
第11週	Lesson 4 <i>Ahmed's Gift of Life</i>	子供を失った父親は意外な方法で戦争に NO を突きつけた。仮定法[I wish~, as if~, were to~, if S should~, if it were not for~, if it had not been for~]。	
第12週			
第13週			
第14週	Lesson 5 <i>The World of Miyazawa Kenji is Our World</i>	宮沢賢治が 21 世紀の私達につたえようとしていることとは。無生物主語。It の用法(2)[強調構文]。	
第15週			
前期末試験			
第16週	Lesson 5		
第17週	Lesson 6 <i>Machu Picchu: City in the Clouds</i>	マチュピチュは何のために作られたのか。謎を解くカギが近年明らかに。動名詞[having+過去分詞。不定詞(1)[to have+過去分詞]。	
第18週			
第19週			
第20週	Lesson 7 <i>Paul Klee: A Musical Painter</i>	バウル・クレーは絵画と音楽の融合を目指していた。関係代名詞(1)[関係代名詞+I think など, what の慣用表現]。語順・同格。	
第21週			
第22週	後期中間試験		
第23週	Lesson 8 <i>Emotions Gone Wild</i>	動物も人間と同じように複雑な感情を持っているのだろうか?。There 構文[There+be 以外の動詞]。関係代名詞(2)[二重限定]。	
第24週			
第25週			
第26週	Lesson 9 <i>Michael J. Sandel on Kant: Freedom and Morality</i>	サンデル教授が語るカントにとっての自由と倫理とは?。倒置。不定詞(2)[独立不定詞]。省略。	
第27週			
第28週			
第29週	Lesson 10 <i>Donald Woods: Real Journalism Takes Courage</i>	一人のジャーナリストがアパルトヘイトに立ち向かい歴史を動かした。関係代名詞(3)[前置詞+関係代名詞, 文や節を受ける which]。分詞構文。	
第30週			
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した、3 : ほぼ理解した、2 : やや理解できた、1 : ほとんど理解できなかった、0 : 全く理解できなかった、

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

<p>英文読解 I (Intensive English I)</p>	<p>2 年・通年・2 単位・必修 電気工学科：担当 藤原 郁郎</p>	
<p>〔準学士課程（本科 1－5 年） 学習教育目標〕 (3)</p>		
<p>〔講座の目的〕 学生の英語コミュニケーションの素地を養い、さらに英語の正確な読み書きに結びつける。英語 II と連携をとりながら、学生に必要な語彙や文法、表現力を繰り返し練習する事で、彼らの総合的な英語力を高める。</p>		
<p>〔講座の概要〕 学生は、各教材によって、文法事項の説明、単語、連語の理解をさらに深め、繰り返し練習する。学生は将来、論文を正確に読み書きする際に必要となる語彙、文法、表現力を身につける。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 各章の文法事項をきちんと理解し、繰り返し練習し習得する。知らない単語や連語については、あらかじめノートに書き写し、その文意にあった意味を書き留めておく。 他の学生の発表や、それに対する教師の指導を、注意深く聞く。 出される課題は、学習内容を身につけるために大切なので、きっちりとこなす。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期中間試験：1) 文の種類、2) 動詞と文型、3) 動詞と時制、4) 完了形、5) 助動詞 1、6) 助動詞 2、7) 態 1、8) 態 2 ・ 前期末 試験：1) 不定詞 1、2) 不定詞 2、3) 動名詞 1、4) 動名詞 2、5) 分詞 1、6) 分詞 2、7) 比較 1、8) 比較 2、9) 関係詞 1 ・ 後期中間試験：1) 関係詞 2、2) 仮定法 1、3) 仮定法 2、4) 疑問詞と疑問文、5) 否定 1、6) 否定 2、7) 話法、8) 名詞構文・無生物主語 1 ・ 学年末 試験：1) 名詞構文・無生物主語 2、2) 強調・倒置・挿入・省略・同格、3) 名詞、4) 冠詞、5) 代名詞、6) 形容詞、7) 副詞、8) 前置詞、9) 接続詞 		
<p>〔評価方法〕 定期試験（60%）と小テスト、課題、授業での取り組み・発表（40%）を加えて総合的に評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 総合英語 Forest Master Drills for 6th edition（標準編）（桐原書店編集部）</p> <p>〔補助教材・参考書〕 Genius English Course II Revised （大修館書店）</p>		
<p>〔関連科目〕 英語 I や英語 II</p>		

講座項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンスと1章	文の種類	
第2週	2章	動詞と文型	
第3週	3、4章	動詞と時制、完了形	
第4週	5、6章	助動詞1、2	
第5週	7章	態1	
第6週	8章	態2	
第7週	9、10章	不定詞1、2	
第8週	11章	動名詞1	
第9週	12章	動名詞2	
第10週	13章	分詞1	
第11週	14章	分詞2	
第12週	15章	比較1	
第13週	16章	比較2	
第14週	17章	関係詞1	
第15週		これまでの整理	
前期末試験			
第16週	17、18章	関係詞1、2	
第17週	19、20章	仮定法1、2	
第18週	21章	疑問詞と疑問文	
第19週	22章	否定1	
第20週	23章	否定2	
第21週	24章	話法	
第22週	25章	名詞構文・無生物主語1	
第23週	26章	名詞構文・無生物主語2	
第24週	27章	強調、倒置、挿入	
第25週	27章	省略、同格	
第26週	28、29章	名詞、冠詞	
第27週	30、31章	代名詞、形容詞	
第28週	32、33章	副詞、前置詞	
第29週	34章	接続詞	
第30週		これまでの整理	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した、3 : ほぼ理解した、2 : やや理解できた、1 : ほとんど理解できなかった、0 : 全く理解できなかった、
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

電磁気学Ⅰ (Electromagnetics I)	2 年・後期・1 単位・必修 電気工学科・担当 藤田直幸	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>本科目は、電磁気学の導入科目として、静電界を中心とした電磁気現象を講義する。電気回路、電気機器、通信、電力、電子デバイス、電子物性等の電気電子工学のすべての分野において、電磁気現象が利用されており、電気電子系技術者にとって、電磁気学を理解することは必須である。本講義では、静電界中の物理量の定義や、法則、その計算方法を身に付けることを目的に講義を行う。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>クーロンの法則、電界、電位について順に、定義や物理的な意味について説明する。また、例題を解くことで、これらの諸量を求める方法を説明する。</p> <p>平素より自学自主をすることを身につけるためにも、予習・復習のノート提出を頻繁に行う。また、小テストを行う。中間テストと学年末テストの間に理解度テストを行う。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>電気の基礎科目なので、自ら、繰り返し計算問題に取り組み、電磁気の基礎概念を身に付けるように努力して欲しい。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>後期中間試験：クーロンの法則、電界の定義を理解し、計算が出来るようになる。</p> <p>学年末試験：ガウスの定理、電位、導体について理解し、計算が出来るようになる。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験・理解度テスト（80%）、宿題・ノート（20%）とし、定期試験ごとに提示する達成目標を各々クリアする事で単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>プリントを配布して講義を行う。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「なるほどワカッタ！電磁気学」，オーム社，大伴洋祐著</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>本科目は、情報ソフト系科目を除く、電気工学科のすべての科目と関連が深い。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価＊
第 1 週	電磁気学Ⅰの位置づけ	講義の概要、電磁気学Ⅰの位置づけについて説明する。	
第 2 週	クーロンの法則（１）	クーロンの法則，点電荷によるクーロン力，力の合成などを学ぶ．	
第 3 週	クーロンの法則（２）		
第 4 週	クーロンの法則（３）		
第 5 週	電界の計算（１）	電界の定義，点電荷による電界の計算，多数の点電荷による電界の計算を学ぶ．	
第 6 週	電界の計算（２）		
第 7 週	電界の計算（３）		
第 8 週	ガウスの法則（１）	ガウスの法則，それを用いて電界を求める方法を学ぶ．	
第 9 週	ガウスの法則（２）		
第 10 週	ガウスの法則（３）		
第 11 週	理解度テスト	ガウスの法則について理解度テストを行う．	
第 12 週	電位の計算（１）	電位の定義と電位の計算方法について学ぶ．また，導体の性質についても学ぶ．電位と電界の関係も学ぶ．	
第 13 週	電位の計算（２）		
第 14 週	電位の計算（３）		
第 15 週	電位の計算（４）		
期末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">電気回路 I (Electrical Circuits I)</p>	<p style="text-align: center;">2 年・通年・2 単位・必修 電気工学科・担当 中村 善一</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 電気回路は電気工学を学習していく上で欠かすことのできない基礎科目である。回路素子（抵抗、コイル、コンデンサ）の正弦波交流に対する振る舞いの理解、回路を代数的に解く手段である記号法の習得を目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 我々の家庭にきている電気が正弦波交流である。まず、正弦波交流とはどのようなものなのかを学び、電気回路で使用される抵抗、コイル、コンデンサに正弦波交流を加えた場合の振る舞いについて理解する。次に、各素子の組み合わせである電気回路の計算を行うための方法について学ぶ。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 講義の中で適宜演習を行うが、回路計算を習得するには多数の問題を解くことが大切である。授業中に紹介する参考書や問題集を購入し、自ら多数の問題に挑戦してもらいたい。また授業での理解不足を感じた場合などは、オフィスアワーを利用するなど積極的に質問し理解に努めるようにして欲しい。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験：正弦波交流の表し方（瞬時値）を理解する。周期、周波数と角周波数の関係が分かり、位相差が計算できる。簡単な交流波形の平均値、実効値が計算できる。正弦波のベクトル表示ができ、これを用いた正弦波の合成ができる。 前期末試験：RLCの正弦波交流に対する働き（電圧、電流、位相差の関係）とインピーダンスについて理解する。RLCを組み合わせた簡単な直列回路、並列回路の計算ができ、ベクトル図がかけられる。 後期中間試験：複素数の計算および記号法によって回路の計算ができる。網目法と接続点法を用いて電源が複数存在する回路の計算ができる。 学年末試験：種々の定理を理解する。特に、重ねの理、テブナンの定理、ミルマンの定理を用いて回路の計算ができる。交流ブリッジの平衡条件を求めることができる。直列共振、並列共振について理解する。</p>		
<p>〔評価方法〕 試験（定期試験、学力補充試験）（80%）、課題（10%）、授業への取り組み（教員の質問に対する応答や授業中の質問など）（10%）で評価する。なお、成績不振者には適宜学力補充試験を行う。</p>		
<p>〔教科書〕 「電気回路（1）直流・交流回路編」、コロナ社、早川義晴・松下祐輔・茂木仁博 〔補助教材・参考書〕 「補助教材：配布プリント」</p>		
<p>〔関連科目〕 履修前：基礎電気回路、数学（三角関数は必須） 履修中：電気回路演習、電磁気学Ⅰ、物理（波、電磁気）、数学（行列と行列式、微積分は必須） 履修後：電気回路Ⅱ、電気回路Ⅲ、電気機器工学をはじめとする専門科目全般</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	正弦波交流とは	この一年で何を学ぶのかを概観する。次に、直流と交流の違い、これから学ぶ正弦波交流とはどのようなものなのかについて説明する。	
第 2 週	波形の表し方	正弦波交流波形を時間関数として表す方法を学ぶ。また、位相差について説明する。	
第 3 週	正弦波交流電圧の発生 平均値 実効値と波形率、波高率	正弦波交流電圧の発生方法（交流発電機の原理）について説明する。 正弦波交流および各種波形の平均値の求め方について説明する。 実効値とは何かについて学ぶ。各種波形の実効値の求め方および波形率、波高率について説明する。	
第 4 週			
第 5 週			
第 6 週	三角関数による正弦波交流の取り扱い	三角関数による正弦波交流の和および差の求め方を説明する。	
第 7 週	正弦波交流のベクトル表示	正弦波交流をベクトルとして表す方法を学び、これを用いた正弦波交流の和および差の求め方を説明する。	
第 8 週	各素子 (R, L, C) の性質 I	抵抗、コイル（インダクタンス）、コンデンサ（キャパシタンス）に正弦波交流を加えた場合の、電圧と電流の関係について説明する。 さらに、リアクタンスについて説明する。	
第 9 週	各素子 (R, L, C) の性質 II		
第 10 週	R L 直列回路	R L 直列回路に正弦波交流を加えた場合の電圧と電流の関係、およびインピーダンスについて説明する。	
第 11 週	R C 直列回路	R C 直列回路に正弦波交流を加えた場合の電圧と電流の関係、およびインピーダンスについて説明する。	
第 12 週	R L C 直列回路	R L C 直列回路に正弦波交流を加えた場合の電圧と電流の関係、およびインピーダンスについて説明する。また、直列共振についても簡単に解説する。	
第 13 週	R L 並列回路	R L 並列回路に正弦波交流を加えた場合の電圧と電流の関係、およびアドミタンスについて説明する。	
第 14 週	R C 並列回路	R C 並列回路に正弦波交流を加えた場合の電圧と電流の関係、およびアドミタンスについて説明する。	
第 15 週	R L C 並列回路	R L C 並列回路に正弦波交流を加えた場合の電圧と電流の関係、およびアドミタンスについて説明する。	
前期期末試験			
第 16 週	複素数の計算	記号法による回路計算を行うために必須である、複素数の直角座標表示、極座標表示、四則演算について解説する。	
第 17 週	正弦波交流の複素数表示	複素数とベクトルの関係を説明し、正弦波交流を複素数で表す方法を学ぶ。	
第 18 週	記号法	インピーダンスの複素数による表現を学び、複素数により電圧、電流、インピーダンスを表すことで回路計算が簡単に行えることを説明する。	
第 19 週	記号法による回路計算	記号法を用いた直列回路、並列回路、直並列回路の計算を行う。	
第 20 週	オームの法則とキルヒホッフの法則	記号法を用いることで、直流回路で成り立つオームの法則、キルヒホッフの法則、分流の式、分圧の式が交流回路でも成り立つことを解説する。	
第 21 週	網目法による回路解法	網目方程式の立て方およびその解法について説明する。	
第 22 週	接続点法による回路解法	節点方程式の立て方およびその解法について説明する。	
第 23 週	網目法・接続点法の演習	演習問題を解くことで、網目法と接続点法の理解を深める。	
第 24 週	等価電圧源と等価電流源	等価電圧源と等価電流源の相互変換について解説する。	
第 25 週	種々の定理 I	重ねの理、テブナンの定理、ノートンの定理、ミルマンの定理を解説し、例題を通して使用法を学ぶ。	
第 26 週	種々の定理 II		
第 27 週	定理のまとめ	演習問題を解くことで、定理の理解を深める。	
第 28 週	交流ブリッジ回路	交流ブリッジ回路について解説し、ブリッジの平衡条件について学ぶ。	
第 29 週	共振回路	直列共振回路、並列共振回路について説明する。	
第 30 週	条件付き回路、 $\Delta - Y$ 変換	$\Delta - Y$ 変換について説明する。さらに条件付き回路についていくつか取り上げ解説する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">電気回路演習 (Exercises on Circuits and Circuit Analysis)</p>	<p style="text-align: center;">2 年・前期・1 単位・必修 電気工学科・担当 中村 善一</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 本講義は、演習を通して、1 年科目「基礎電気回路」と 2 年科目「電気回路 I」の基礎的学力を確実に身に付けることを目的としている。</p>		
<p>〔講義の概要〕 電気回路で使用される数学の基礎、ベクトル、三角関数を理解させることを重点に置き、直流回路と基本的な交流回路の計算方法を理解させる。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 回路計算には、数学的知識と確かな計算力が不可欠であり、自分の弱点をよく認識し、克服していくことが必要である。回路計算が正確にできるようになるまで繰り返し問題を解くこと。また、講義以外に問題集などでできるだけ多くの回路計算問題をこなすこと。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験：直流回路の基礎を身に付ける。 前期末試験：交流回路の基礎と三角関数を中心とする数学的知識を理解する。</p>		
<p>〔評価方法〕 試験（定期試験と学力補充試験）（80%）、課題（10%）、授業への取り組み（教員の質問に対する応答や授業中の質問など）（10%）で評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 なし。</p> <p>〔補助教材・参考書〕 プリント主体。 参考書：「電気回路 I」の教科書、回路計算の問題集</p>		
<p>〔関連科目〕 基礎電気回路（1 年）、電気回路 I（2 年）、電気回路 II（3 年）、電気回路 III（4 年）</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	講義の進め方を説明し、基礎学力の確認を行う。	
第2週	直流回路の復習Ⅰ	合成抵抗、 Δ —Y変換	
第3週	直流回路の復習Ⅱ (1)	キルヒホッフの法則	
第4週	直流回路の復習Ⅱ (2)	同上	
第5週	直流回路の復習Ⅲ (1)	重ねの理、鳳—テブナンの定理	
第6週	直流回路の復習Ⅲ (2)	同上	
第7週	直流回路の復習Ⅳ	直流回路における電力	
第8週	電気数学の基礎Ⅰ	三角関数の計算	
第9週	電気数学の基礎Ⅱ	ベクトルによる計算	
第10週	正弦波交流Ⅰ	三角関数による表現	
第11週	正弦波交流Ⅱ	交流の位相差・平均値・実効値	
第12週	正弦波交流Ⅲ	ベクトルによる表現	
第13週	R、L、Cの性質Ⅰ	R、L、Cに正弦波交流を加えた場合の電圧と電流の関係	
第14週	R、L、Cの性質Ⅱ	リアクタンス	
第15週	総合演習	まとめとしての総合的な演習	
前期末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

デジタル回路 (Digital Circuits)	2 年・通年・2 単位・必修 電気工学科・担当 小坂 洋明	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>日常の身の回りの中でコンピュータが当たり前のように使われている現在、コンピュータに関する基本的知識を習得しておくことは、電気系エンジニアとして最低限度押さえてなければならない必須事柄である。本講義の目的は、コンピュータハードウェアに関する必須知識であるデジタル回路の基本的な知識について理解することである。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>コンピュータの内部動作を理解するには、デジタル回路の理解が必要である。本講義では、デジタル回路の基本である 2 進数をはじめ、論理代数、論理回路、組み合わせ回路、順序回路などに関する基本的事項について触れる。理解の促進や確認のため、適宜課題などを行う。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>この科目だけではないが、これからは、表面的な記憶中心の学習方法をする、すぐに限界が来る。予習を行うことや、授業中に受講内容を頭の中でイメージ化し、意味を深く理解する訓練をすることを強く勧める。オフィスアワーの利用など、自ら積極的な学習態度をとることを期待する。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 2 進数の演算、基本論理演算を理解し、各種演算ができる。</p> <p>前期末試験： 組み合わせ回路や演算回路の基礎について理解できる。簡単な組み合わせ回路の設計ができる。</p> <p>後期中間試験： 各種フリップフロップ、カウンタ、レジスタの基礎について理解できる。</p> <p>学年末試験： デジタルデバイスの基礎について理解できる。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験（60％）、課題・小テスト（30％）、授業への取り組み（10％）により評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「よくわかるデジタル回路」、電気書院、春日 健 著</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>プリント（授業中配付）</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>プログラミング（2 年）、コンピュータハードウェア（3 年）、組み込みシステム（5 年）</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第 1 週	ディジタル技術の基礎、数の表現	ディジタルとアナログ、2進数、16進数	
第 2 週	基数変換・補数	2進・10進・16進変換、補数、負数	
第 3 週	論理関数の基礎(1)	基本論理、真理値表、ベン図	
第 4 週	論理関数の基礎(2)	論理変数の公理・定理、双対性	
第 5 週	論理関数の基礎(3)	論理演算	
第 6 週	論理関数の基礎(4)	標準形	
第 7 週	論理関数の簡単化	カルノー図	
第 8 週	総合演習(1)	前期中間試験問題の解説	
第 9 週	組み合わせ論理回路(1)	論理ゲート、基本的な組み合わせ回路	
第 10 週	組み合わせ論理回路(2)	代表的な組み合わせ回路(1)	
第 11 週	組み合わせ論理回路(3)	代表的な組み合わせ回路(2)	
第 12 週	演算回路(1)	加算回路	
第 13 週	演算回路(2)	減算回路	
第 14 週	演算回路(3)	加減算回路	
第 15 週	総合演習(2)	今までの内容の確認・復習	
前期期末試験			
第 16 週	総合演習(3)	前期期末試験の解説	
第 17 週	順序論理回路(1)	順序回路の基礎、状態遷移表、状態遷移図	
第 18 週	フリップフロップ(1)	RS-FF、RST-FF、D-FF	
第 19 週	フリップフロップ(2)	JK-FF、T-FF	
第 20 週	順序論理回路(2)	ハザード、マスタ・スレーブ形 FF	
第 21 週	カウンタ	カウンタ (8進、5進)	
第 22 週	レジスタ	シフトレジスタ	
第 23 週	総合演習(4)	後期中間試験問題の解説	
第 24 週	順序論理回路の設計	順序論理回路の設計	
第 25 週	ディジタルデバイス(1)	ダイオード、トランジスタ	
第 26 週	ディジタルデバイス(2)	MOS FET、インバータ	
第 27 週	ディジタルデバイス(3)	ダイオードを用いた論理演算	
第 28 週	ディジタルデバイス(4)	DTL	
第 29 週	ディジタルデバイス(5)	TTL	
第 30 週	総合演習(5)	今までの内容の確認・復習	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">プログラミング (Computer Programming)</p>	<p style="text-align: center;">2 年・通年・2 単位・必修 電気工学科・担当 芦原 佑樹</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 携帯電話・スマートホンをはじめとして、炊飯器や洗濯機にまでマイクロコンピュータが搭載されている。そのため、ハードウェア技術だけで製品設計を行うことは難しく、必ずソフトウェアプログラミングが必要となる。本講義では、広く汎用的に使用されている C 言語の基礎事項を講義する。また、WWW で用いられる HTML や JavaScript も取り上げる。</p>		
<p>〔講義の概要〕 C 言語の基礎事項について講義する。また、WWW で用いられる HTML や JavaScript も取り上げる。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 講義だけで習得することは難しい。講義中に、実際にプログラミングを行う演習時間を確保するが、演習室や自宅のプログラミング環境を利用して、予習復習を行うことが望ましい。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験： プログラミング環境の基礎事項を習得する。 前期末試験： プログラミングの基礎事項を習得する。 後期中間試験： プログラミングの応用事項を習得する。 学年末試験： HTML とその周辺知識の基礎事項を習得する。</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績（60％）に演習レポート（40％）を含めて総合評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 柴田望洋,「新版 明解 C 言語 入門編」, SB クリエイティブ</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p>		
<p>〔関連科目〕 ディジタル回路, 組み込みシステム</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	C言語の概要	エディタ，コンパイラの使い方	
第2週	読み込みと表示	printf, scanf	
第3週	演算と型	演算子，データ型，型キャスト	
第4週	分岐	if, switch	
第5週	繰り返し（1）	do, while	
第6週	繰り返し（2）	for, 多重ループ	
第7週	配列（1）	一次元配列	
第8週	配列（2）	多次元配列	
第9週	関数（1）	関数定義，返却値，引数，	
第10週	関数（2）	ヘッダ，インクルード，スコープ	
第11週	関数（3）	問題演習	
第12週	基本型（1）	整数型，文字型	
第13週	基本型（2）	内部表現とビット，補数	
第14週	基本型（3）	浮動小数点型，演算子の優先順位	
第15週	いろいろなプログラム（1）	関数形式マクロ，列挙体	
前期期末試験			
第16週	いろいろなプログラム（2）	再帰，文字コード，エスケープシーケンス	
第17週	文字列（1）	文字列，文字列リテラル	
第18週	文字列（2）	文字列配列，文字列の操作	
第19週	ポインタ（1）	アドレスとポインタ	
第20週	ポインタ（2）	文字列とポインタ	
第21週	構造体	並び替え，構造体のメンバ	
第22週	ファイル処理	テキストとバイナリ	
第23週	連携	他のアプリケーションとの連携	
第24週	ネットワーク（1）	ソケット	
第25週	ネットワーク（2）	ネットワークプログラミング	
第26週	WWW	WWWの概要について学ぶ	
第27週	HTML	HTMLについて学ぶ	
第28週	JavaScript（1）	JavaScriptについて学ぶ	
第29週	JavaScript（2）	JavaScriptについて学ぶ	
第30週	フォーム	JavaScriptとフォームの連携	
学年末試験			

* 4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

電気・電子工学実験 I (Experiments on Electrical and Electronic Engineering I)		2 年・通年・3 単位・必修 電気工学科・担当（長田芳裕・中村善一・石飛 学）	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)			
〔講義の目的〕 以下の 3 点を目的とする。 ・オシロスコープ、ブレッドボードや各種計器を使いこなせるようにする。 ・電気工学の基礎的事項に関する実験を通し、授業で習う種々の電気理論を確認及び理解する。 ・電気技術者として必要なレポートの書き方、結果の整理の仕方を修得する。			
〔講義の概要〕 直流及び交流回路を中心とした実験を行う。実験を通してブレッドボードや基本計器の使い方を学び、個人テストによるチェックを行う。また、ディジタル IC や LED を使った簡単な回路を基盤上に作製し、回路図の読み方や実装の基礎を学ぶ。			
〔履修上の留意点〕 理論で習うより先に実験するテーマがいくつかある。必ず、実験前に指導書を良く読み、不明な点や分からない装置等がある場合は、各自調べたり教員に聞いておくこと。また、チームで実験を行うのでチームワークを発揮して実験を行うこと。			
〔到達目標〕 ① レポートにおける図や表の書き方を修得 ④ 各種計器の使い方を修得 ② レポートのまとめ方を修得 ⑤ ブレッドボードの使い方を修得 ③ グループによるチームプレーができること ⑥ 実験内容の理解			
〔評価方法〕 以下の 3 点により評価 ・レポート（80%）：内容 及び 提出状況（各レポートにつき 1 週遅れで－10 点、6 週遅れで 0 点） ・テスト（20%）：普段から自主的に実験していれば、難しくない内容（測定器の使い方等）			
〔教科書〕 （教科書）電気工学科作成の指導書 （使用器具）半田ゴテ、ニッパ、ラジオペンチ、ブレッドボード、関数電卓、各種計器 等 （補助教材）各種プリント			
〔補助教材・参考書〕 テーマごとに各自で文献を調査する。			
〔関連科目〕 主として、基礎電気回路、電気回路 I、電磁気学 I や各演習で習う内容について実験を行うので、実際の現象を通して再確認してほしい。また、今後の実験等に繋がる、各種計器の使い方、ハンダゴテの使い方、電気技術者として必要なレポートの書き方や結果の整理の仕方を修得する。			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	全体ガイダンス + 測定器調べ	まず、担当教職員紹介、実験マナー・安全指導、必要物品、レポートの提出方法、成績の付け方と今後の進め方についてガイダンスを行う。次に、各班ごとに「測定器調査シート」を使って「測定器調べ」を行う。	
第 2 週	レポート作成指導	実験ノートの使い方にも触れながら、レポート書き方ガイダンスを行う。その後、ミニ実験を行い、レポートを（穴埋め型式で）実際に作成する。	
第 3 週		レポート交換チェックを行い、班ごとに改善点等まとめ発表。+ 修正。	
第 4 週	実験ガイダンス 1	4 週分の実験書配布 + ガイダンス（4 回分の簡単な説明付き）	
第 5 週	実験 1	「抵抗の実験」 or 「オームの法則の実験」	
第 6 週		「抵抗の実験」 or 「オームの法則の実験」、レポート提出	
第 7 週	実験 2	「電圧計の実験」 or 「電流計の実験」	
第 8 週		「電圧計の実験」 or 「電流計の実験」、レポート提出	
第 9 週	第 1 回実験テスト	1 人ずつ実験テストを行う。	
第 10 週		前週クリアできなかった学生に対し指導 + 追試。以降は実験後に再試。	
第 11 週	実験ガイダンス 2	4 回分の実験書配布 + ガイダンス	
第 12 週	実験 3	3 週 × 4 テーマの実験を行う。 1 週目：事前指導 + 実験 2 週目：実験 3 週目：実験 + 前実験のレポート提出 <実験テーマ> 「オシロスコープを使った実験」 「マイコンを使った実験」 「回路シミュレータを使った実験」 「キャパシタに関する実験」	
第 13 週			
第 14 週			
第 15 週			
第 16 週			
第 17 週			
第 18 週			
第 19 週			
第 20 週			
第 21 週			
第 22 週			
第 23 週			
第 24 週	第 2 回実験テスト	1 人ずつ実験テストを行う。	
第 25 週		前週クリアできなかった学生に対し指導 + 追試。以降は実験後に再試。	
第 26 週	実験ガイダンス 3	「論理回路に関する製作実験」についてガイダンス + 準備。	
第 27 週	実験 4（製作実験）	「論理回路に関する製作実験」	
第 28 週			
第 29 週			
第 30 週	実験のまとめ	実験のまとめ、実験のやり直し等を行う。最終レポート提出日。	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)